

経済人

わたしの一言

95

常おのれに己の進路を求めて止まざるは水なり

戦国時代の武将、黒田官兵衛が残したと言われる「水五訓」のうちの一つ。どんな困難に遭っても、信じた道に向かって動き続けることの大切さが説かれている。



丸新志鷹建設(立山町芦峯寺)

社長 志鷹 新樹氏

護岸や砂防ダム工事など水にかかわる仕事に主力。それだけに「人としてあるべき姿を身近な水になぞらえた言葉に、はっと気付かされるものがあった」。

この言葉と出合ったのはちょうど1年前。立山黒

部貫光創業者の故佐伯宗義氏の秘書や同社社長を務めた金山秀治氏の自宅を訪れた時のことだ。「君にぴったりの言葉がある」。水五訓をしたためた書を贈られた。書は本社3階の社長室の壁に掲げてある。時折読み返しては信念を貫くことの大切さを自らに言い聞かせる。

公共事業縮小のおおりに受け、県内の建設業者はこの20年間で2割以上減った。将来の基盤を確保しようと1992年にネパール支店を開設し、海外に進出した。多くの困難を乗り越え、今では海外売上高が全体の6割を超える。

「担い手不足など、業界や自社の課題は依然多いが、信念を持って挑戦を続けたい」と前を見据える。

隔週火曜に掲載します